

登米地域の麦作技術情報 第2号



令和6年4月15日発行
Tel 0220-22-6127

宮城県登米農業改良普及センター
HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 調査ほ及び管内の生育概要

4月10日現在の生育状況

品種	町域		播種日 (月/日)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	幼穂長 (mm)	幼穂形成期 (月/日)
あおばの恋	豊里	本年値	11/3	40.3	820	7.8	3/18
		前年比・差	-7	90%	108%	51%	8
		平年比・差	-9	132%	126%	112%	-7
シラネコムギ	迫	本年値	10/31	19.4	974	1.3	3/29
		前年比・差	-4	72%	98%	33%	7
		平年比・差	-2	93%	139%	52%	-7

*平年値はH31～R5年の5か年平均

あおばの恋の草丈、莖数、幼穂長は平年値を上回り推移しています。シラネコムギの草丈、幼穂長は平年値を下回っていますが、莖数は平年値を上回っています。あおばの恋は3月18日、シラネコムギは3月29日に幼穂形成期に達しています。

今後の生育ステージ予測（4月10日調査）

品種	町域		播種日 (月/日)	幼穂長 (mm)	推定日		
					減数分裂期 (月/日)	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)
あおばの恋	豊里	本年値	11/3	7.8	4/24	5/5	5/15
		平年値	11/6	6.9	4/25	5/6	5/16
シラネコムギ	迫	本年値	10/31	1.3	5/7	5/15	5/25
		平年値	11/8	2.5	5/2	5/11	5/21

*出穂期の推定は麦類生育ステージ予測シートver4.0による

**平年値はH31～R5の平均。

あおばの恋の出穂期は5月5日頃、シラネコムギの出穂期は5月15日頃と推定されます。

今後の気象により実際の出穂期は前後するので、ほ場をよく観察し、追肥や防除のタイミングを逃さないようにしましょう。

2. これからの管理のポイント 適切な追肥と防除の徹底

1) 追肥

減数分裂期追肥は1穂粒数を多くし、穂揃期追肥は千粒重、容積重、子実たんぱく質含有率を高めます。

小麦では品質を確保するために、減数分裂期と穂揃期に追肥を行いましょう。ほ場条件や品種、生育量、追肥の前歴などによって追肥量を調整しましょう。

大麦では穂揃期に追肥すると硝子率が高くなるなど品質が低下するので、追肥時期は減数分裂期までにしましょう。

☆追肥量の目安

		単位: kg/10a				
		幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期		
品種	施肥量	幼穂長が 2~3mm	幼穂長が3~5cm 止め葉の葉耳間長が±0mm 出穂10~15日前	出穂した茎が80%		
大麦	シュンライ	窒素成分量	2~2.5	2~2.5	—	
	ミノリムギ	現物量	硫安 (N:21%)	9.5~12	9.5~12	—
	ホワイトファイバー		尿素 (N:46%)	4.3~5.4	4.3~5.4	—
小麦	シラネコムギ	窒素成分量	2.5	2.5~5	2.5 (夏黄金:5kg/10a)	
	あおばの恋	現物量	硫安 (N:21%)	12	12 (夏黄金:24kg/10a)	
	夏黄金		尿素 (N:46%)	5.4	5.4~10.8	5.4 (夏黄金:10.8kg/10a)

○減数分裂期の推定方法

減数分裂期の判断(大麦)

普及に移す技術第81号(参考資料)

幼穂長と葉耳間長(mm)

		幼穂長	20	→	25	→	30
葉耳間長	シュンライ	-30~-19	1~2日	-12~0	1~2日	+23~+39	
	ミノリムギ	-36~-23		-25~-15		+5~+18	

圃場で大麦の追肥作業の目安を判断するときは、葉耳間長±0mm以上に達した茎が**全茎数の10~20%程度**が適当(硬質粒を考慮)

減数分裂期の判断(小麦)

普及に移す技術第84号(参考資料)

幼穂長と葉耳間長(mm)

		幼穂長	30	→	40	→	50
葉耳間長	シラネコムギ	-30	1~2日	+3	1~2日	+30	
	ゆきちから	-35		±0		+25	

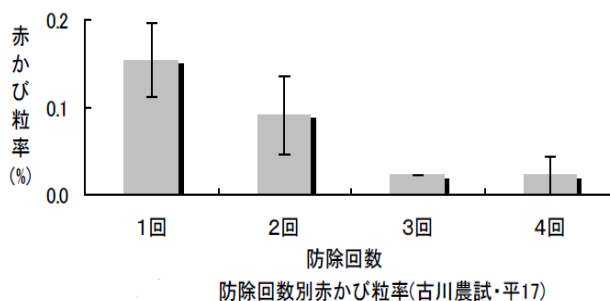
圃場で小麦の追肥作業の目安を判断するときは、葉耳間長±0mm以上に達した茎が**全茎数の40~50%程度**に達した時期が適当

大麦では葉耳間長±0cm以上に達した茎が**全茎数の10~20%程度**、小麦では葉耳間長±0cm以上に達した茎が**全茎数の40~50%程度**に達した時期が減数分裂期と推定されます。ほ場を確認し、適期追肥の判断に活用してみましょう。

2) 赤かび病の防除

赤かび病の防除は、基本は「**2回防除**」です。1回目は「**開花始期~開花期**」、2回目は「**1回目の7~10日後**」に防除を行うようにしましょう。特に開花期の防除効果は最も高いため、**1回目の防除時期は厳守**しましょう。雨が続く場合は追加防除も検討しましょう。

また、赤かび病に対する抵抗性が低い**夏黄金**は3回の防除を行きましょう(3回目は2回目の7~10日後)。



令和6年度 農作業安全運動(令和6年3月1日~令和6年6月30日)
徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策